

- 問1 奈良時代、聖武天皇は全国に国分寺・国分尼寺を建立し、東大寺に大仏を造立しました。このように、仏教の力によって疫病や災害などの社会不安から国家を安定させようとした当時の根本的な思想を何といますか。 (2026年 千葉公立入試 類似)
- 鎮護国家の思想
 - 国風文化の思想
 - 浄土信仰の教え
 - 本地垂迹説
- 問2 大化の改新から律令制度の確立にかけて整備された租税のうち、絹や布、あるいは各地の海産物といった「地方の特産物」を、都まで運んで納める義務のことを何と言いますか。 (2021年 大分県公立入試 類似)
- 租
 - 庸
 - 調
 - 公事
- 問3 奈良時代、朝廷が東北地方の支配を広げるために、現在の宮城県に設置した行政と軍事の拠点として正しいものはどれですか。 (2021年 群馬県公立入試 類似)
- 多賀城
 - 大宰府
 - 国分寺
 - 安土城
- 問4 奈良時代において、仏教の力で国家の安定を図る「鎮護国家」の思想に基づき、全国に国分寺・国分尼寺を建立することを命じた人物は誰ですか。また、その人物の遺品が納められ、国際色豊かな天平文化を今に伝える、奈良市に位置する正倉院との関わりが深い人物を次の中から選びなさい。 (2022年 京都公立入試 類似)
- 聖武天皇
 - 桓武天皇
 - 推古天皇
 - 後三条天皇
- 問5 律令制が整えられた時期、政府は戸籍を作成して人々の把握に努めました。この戸籍に基づいて行われた「班田収授法」の内容として、最も適切な説明はどれですか。 (2016年 静岡公立入試 類似)
- 6歳以上の男女に口分田を与え、死亡した際にはその土地を国に返還させる制度。
 - 新しく開墾した土地を、三世にわたって私有することを認める制度。
 - 有力な貴族や寺社が所有する大規模な私有地を、国家の直轄地として没収する制度。
 - 平城京の周辺にある土地を、功績のあった役人に対して永久に与える制度。
- 問6 律令制度のもと、主に東国（現在の関東地方など）から徴用され、九州北部の沿岸を警備する任務についた兵士を何と呼びますか。彼らは白村江の戦いでの敗北後、唐や新羅からの侵攻に備えるために配置されました。 (2020年 滋賀公立入試 類似)
- 防人
 - 衛士
 - 健児
 - 検非違使
- 問7 奈良時代の聖武天皇は、相次ぐ疫病や社会不安を鎮めるため、仏教の力によって国家の安寧と平和を願いました。その際、日本各地（諸国）に建立を命じた寺院を何といますか。大分県内にもその跡が残り、国の史跡として現代に伝えられています。 (2018年 大分県公立入試 類似)
- 国分寺
 - 東大寺
 - 法隆寺
 - 唐招提寺
- 問8 律令国家が、6年ごとに戸籍を作成し、それに基づいて人々に口分田を割り当てる「班田収授法」を維持した主な目的として、最も適切な説明はどれか。 (2023年 宮城県公立入試 類似)
- 有力な貴族や寺院に土地を寄進させ、地方の政治を安定させるため
 - 人民の構成を正確に把握し、収穫した稲の一部を税（租）として確実に徴収するため
 - 農具や肥料を国が貸し出すことで、荒地の開墾を国家主導で進めるため
 - 土地を永久に個人の私有財産と認めることで、農業生産の意欲を高めるため
- 問9 奈良時代の税制度において、都からの距離と人々に課せられる負担の関係について正しく述べたものはどれですか。都を中心として同心円状に地域の負担を示した資料の内容を踏まえて答えなさい。 (2019年 大分県公立入試 類似)
- 都に近い地域ほど、都で働く労役の日数が多く設定されていた。
 - 都に近い地域ほど、都から遠い地域よりも納める特産物の種類が多く指定されていた。
 - 都に近い地域ほど、収穫した米の一定割合を納める「租」の負担が重くなっていた。
 - 都に近い地域ほど、特産物を都まで運ぶ往復の移動に日数がかかるため、労役が免除されていた。
- 問10 奈良時代の天平文化の特徴について、当時の国際情勢や文化交流の観点から説明したものとして正しいものを選びなさい。 (2022年 新潟県公立入試 類似)
- 遣唐使がもたらした唐の文化の影響を強く受け、国際色豊かな特色を持っている。
 - 武士の精神を反映した、素朴で力強い文化が鎌倉を中心に展開された。
 - 遣唐使の廃止によって唐との交流が途絶えたため、日本独自の優雅な国風文化が生まれた。
 - 禅宗の影響を強く受け、水墨画や茶の湯などの質素な美を尊ぶ文化が形成された。
- 問11 律令制度における租税の仕組みについて、当時の農民が負担した「租」と「調」の性質の違いを説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2018年 香川公立入試 類似)
- 租は収穫した稲を地元の国府に納めるものだったが、調は特産物を遠く離れた都まで運ぶ必要があった。
 - 租は成人男性にのみ課せられる税であったが、調は性別に関係なくすべての農民に課せられた。
 - 租は平城京などの都で消費される食料となったが、調は地方自治の運営費用として蓄えられた。
 - 租は不作の際にも減免されることはなかったが、調は天候によって納める品目が柔軟に変更された。
- 問12 聖武天皇が東大寺に大仏を造立した歴史的な背景とその目的について説明したものとして、最も適切なものはどれか。 (2022年 神奈川県公立入試 類似)
- 伝染病の流行や政治的な混乱による社会不安を、仏教の力によって取り除き、国家を守ろうとした。
 - 阿弥陀仏にすがって極楽浄土へ生まれ変わることを願う浄土信仰を、貴族や民衆の間に広く普及させようとした。
 - 禅宗の影響を受けた当時の最新様式を取り入れ、武家社会の力強さを象徴する三層の建築物を造営しようとした。
 - 大陸から招いた高僧に、僧侶が守るべき正しい戒律を授けるための正式な儀式の場を提供しようとした。
- 問13 東大寺の大仏造立は、莫大な費用と人手を要する国家的な大事業でした。この事業を推進するにあたり、かつては朝廷から布教を制限されていましたが、民衆への社会奉仕活動を通じて絶大な支持を得ていたため、最終的に大仏造立の勸進（協力呼びかけ）として迎えられた僧はだれですか。 (2026年 鳥取公立入試 類似)
- 行基
 - 鑑真
 - 空海
 - 道鏡

答え合わせ・解説

問1	答え 1 鎮護国家の思想	聖武天皇の時代を中心とする天平文化では、仏教の力で国家の安泰を図る「鎮護国家」の思想が強く反映されました。当時は政変や疫病、飢饉が相次いでいたため、聖武天皇は大仏造立の詔を発し、仏教を国家運営の中心に据えることで、目に見えない脅威から国を救おうと試みました。
問2	答え 3 調	律令制度における代表的な租税の一つである「調」は、その土地の特産物を都に納める負担でした。これに対し、収穫した稲を納めるものは「租」、都での労働の代わりに布などを納めるものは「庸」と呼ばれます。平城京などの都の跡地からは、これらの荷物に付けられた「木簡（もっかん）」が多数出土しており、当時の徴収の様子を知る手がかりとなっています。
問3	答え 1 多賀城	奈良時代の朝廷は、支配体制を全国に広げる過程で、各地に重要な拠点を置きました。現在の宮城県に築かれた多賀城は、陸奥国の国府（役所）としての行政機能と、当時「蝦夷」と呼ばれた東北地方の人々に対抗するための軍事機能を併せ持っていました。一方、九州に置かれた大宰府は外交や防衛の拠点であり、国分寺は仏教による国家鎮護を目的として全国に建立された寺院です。
問4	答え 1 聖武天皇	奈良時代の聖武天皇は、疫病や社会不安から国を守るために仏教を深く信仰し、東大寺に大仏を造立するとともに、全国各地に国分寺・国分尼寺を建てました。この時代に栄えた国際色豊かな文化を天平文化と呼び、聖武天皇の愛用品などが納められた正倉院の宝庫は、シルクロードを経由してもたらされた大陸の文物が現存していることで世界的に知られています。桓武天皇は平安京への遷都、推古天皇は飛鳥時代の政治、後三条天皇は摂関政治を抑えた親政で知られる人物です。
問5	答え 1 6歳以上の男女に口分田を与え、死亡した際にはその土地を国に返還させる制度。	律令国家の形成期において、国家は「租」という税を確実に集めるために、班田収授法を確立しました。戸籍をもとに6歳以上の男女に口分田を割り当て、労働力を把握すると同時に、土地の売買や世襲を禁じることで、国家による土地支配を維持しようとしてきました。これに対して、後に制定された「墾田永年私財法」は、開墾した土地の永年私有を認めるものであり、班田収授法の崩壊につながる出来事でした。
問6	答え 1 防人	白村江の戦い（663年）で唐・新羅の連合軍に敗れた倭（日本）は、対外的な緊張が高まったことから、九州北部の防衛を強化しました。その際に配置されたのが防人です。主に東國の農民が選ばれましたが、現地までの旅費や武器は自己負担であり、さらに3年間の任期中は農業に従事できないなど、民衆にとって極めて重い負担となっていました。
問7	答え 1 国分寺	聖武天皇は、仏教の教えによって国を護ろうとする「鎮護国家」の思想に基づき、全国の諸国ごとに国分寺と国分尼寺を建てることを命じました。大分県にある豊後国分寺跡などは、当時の地方行政の広がりや仏教政策の影響を示す重要な歴史的遺構です。
問8	答え 2 人民の構成を正確に把握し、収穫した稲の一部を税（租）として確実に徴収するため	班田収授法は、国家の財政基盤を支えるための重要な制度です。戸籍によって性別や年齢などの人口を把握し、それに応じた口分田を割り当てることで、対価として「租」という税を課しました。これにより、国家は不安定な私有化を防ぎつつ、安定した税収を確保しようとしてきました。
問9	答え 1 都に近い地域ほど、都で働く労役の日数が多く設定されていた。	奈良時代の律令制度では、都からの距離に応じて税や労働の負担が調整されていました。都に近い地域（畿内など）に住む人々は、都までの移動距離が短く、移動に要する日数が少なくて済むため、その分、実際に都で働く「労役（賦役）」の日数が多く課せられていました。これは、遠方の地域の人々が特産物などを都まで運ぶのに多大な日数を費やすこととのバランスを考慮した仕組みです。「租」は主に田地の面積に応じて課されるものであり、都からの距離によって収穫量の割合が変わるものではありません。
問10	答え 1 遣唐使がもたらした唐の文化の影響を強く受け、国際色豊かな特色を持っている。	天平文化は、遣唐使によってもたらされた唐の高度な文化や仏教の影響を強く受けています。当時の唐は西アジアなどとも交流があったため、正倉院の宝物にはペルシャ風の意匠が見られるなど、国際色豊かな（国際性豊かな）文化であったことが特徴です。一方で、国風文化は平安時代中期以降、水墨画などの文化は室町時代以降の特色であるため混同しないよう注意が必要です。
問11	答え 1 租は収穫した稲を地元の国府に納めるものだったが、調は特産物を遠く離れた都まで運ぶ必要があった。	「租」は口分田の面積に応じて課せられる税で、収穫した稲を地方の国府（現在の県庁のような組織）にある正倉に納め、主に地方の財源として使われました。これに対し「調」や「庸」は、中央政府（都）の財源とするために、納税者自身が都まで運搬する「運脚（うんきゃく）」の義務が伴いました。この輸送の負担の差が、当時の農民の生活に大きな影響を与えました。
問12	答え 1 伝染病の流行や政治的な混乱による社会不安を、仏教の力によって取り除き、国家を守ろうとした。	聖武天皇の時代には、天然痘の流行や凶作、政治的な対立による反乱が相次ぎました。これらに対し、天皇は仏教を厚く信じることで国を守る「鎮護国家」の思想を掲げ、平和と国家の安定を願って大仏造立の詔を出しました。
問13	答え 1 行基	行基は、政府の許可なく民衆へ仏教を広め、橋や堤防の建設などの社会事業を行ったことで当初は弾圧されていました。しかし、その圧倒的な動員力と民衆からの信頼を聖武天皇が認め、大仏造立を成功させるために協力を要請しました。一方、鑑真は唐から来日し、正式な僧となるための儀式（授戒）を伝えた人物です。